

特集 防災

その「いつか」は 明日かもしれない

本市を含め、全国に甚大な被害をもたらした「令和元年台風第19号」。地球温暖化の影響などにより、ここ10年の豪雨の発生回数は1979～1989年の約1.2倍となり、土砂災害が起きやすくなっているといえます。

いつ、どこで起こるか分からない土砂災害から身を守るためには、日ごろから災害に備えておくことが大切です。

6月は土砂災害防止月間です。この機会に、自分自身の問題として、防災について考え、家族で確認してみましょう。

☎河川課 ☎(632) 2686、宇都宮土木事務所 ☎(626) 3146

**大雨が続く
これからの時期
土砂災害にご注意を**

自然災害には、台風や大雨などによる風水害や突発的に発生する地震などがあり、人間の力では食い止めることはできません。被害を最小限に抑えるためには、日ごろからこれらの災害に備え、正しい知識を持ち、準備しておくことが大切です。

今回は、これから梅雨や台風の時期によって発生しやすくなる、土砂災害に関する知識や自然災害への備えについて紹介します。

**日ごろから災害に備え
被害を最小限に**

大雨が続くと、崖崩れなどの土砂災害が発生しやすくなります。

土砂災害に備えて、土砂災害ハザードマップを活用し、土砂災害警戒区域などを確認しましょう（8ページ参照）。また、非常持出品の事前準備（9ページ参照）や安全な避難経路の確認など、土砂災害警戒情報の発表時に、速やかに避難ができるよう、日ごろから適切な準備を行い、被害を最小限にとどめましょう。

⚠️ 土砂災害の危険信号 ⚠️

大雨または地震が発生した時、次のような前触れを感じたら、早めに安全な場所へ避難してください。

崖崩れ

- ▼ 崖から水が吹き出す。
- ▼ 崖からの水が濁る。
- ▼ 崖に亀裂が入る。
- ▼ 小石がパラパラと落ちてくる。
- ▼ 崖から音がある。



土石流

- ▼ 山鳴りや立ち木の裂ける音が聞こえる。
- ▼ 石のぶつかり合う音がある。
- ▼ 雨が続けているのに、川の水位が下がる。
- ▼ 川の水が急に濁ったり、流木が流れてきたりする。
- ▼ 泥臭いにおいが漂う。



地すべり

- ▼ 山腹や地面にひび割れができる。
- ▼ 沢や井戸の水が濁る。
- ▼ 斜面や地面から水が吹き出す。
- ▼ 建物や電柱、樹木が傾く。
- ▼ 井戸や池の水かさが増激に変わる。



※写真はイメージです。

**早めの自主避難で
災害から身を守りましょう**

避難とは「難」を「避ける」ことで、危険な場所の外へ身を移して、安全を確保することです。

土砂災害警戒区域に住んでいる人は、災害の前触れを感じた時（左上の記事参照）や市が避難情報を発令した時には、早めにこれらの区域外に避難しましょう。また、土砂災害警戒区域の外などに住んでいる人も身の危険を感じた場合には、速やかに避難してください。

感染症対策を意識した準備を

災害時は、自分と家族の命は自分で守る「自助」が大切です。感染症防止のため、家庭内備蓄品や非常持出品には、体温計や消毒液、マスクも準備しましょう。

また、避難所での密を避けるため、安全な場所にある親戚や知人宅に避難することも検討してください。

土砂災害防災訓練

▼日時 6月5日（日）午前9時～正午。

▼会場 ふれあい西芦沼館（西芦沼町）。

▼対象 西芦沼地区の一部住民。

皆さんが安心して暮らせるように／

「総合治水・雨水対策推進計画」(※)に基づき、 水害に強いまちづくりに取り組んでいます

地球温暖化により、今後も発生する可能性がある大型台風やゲリラ豪雨などの水害への備えが重要です。

本市では、市民の皆さんが安全・安心に暮らせるよう、治水・雨水対策を強化・継続し、水害に強いまちづくりを進めています。

問 河川課 ☎ (632) 2686

流す

河川の改修・下水道の整備

河川の改修や下水道の整備を行い、雨水を安全に流します。



流す

調節池整備

洪水を一時的に貯留して、河川の流量を低減します。

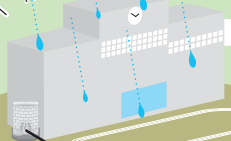
貯める

透水性舗装・浸透ます設置

市道などで雨水を地下に浸透させ、流出を抑制します。



昨年度までに、市内全小中学校に雨水貯留タンク設置完了！



学校



市役所

貯める

官民協働

雨水貯留・浸透施設設置費補助金制度

ID 1002659

敷地内の雨水を貯留・浸透させ、流出抑制を図ります。

市街化区域の一般住宅や事務所などへ雨水貯留タンクなどの設置費を最大3分の2補助します(上限あり)。

詳しくは、9ページまたは市庁舎をご覧ください。工事受付センター ☎ (633) 3164へ。



備える

強化

ハザードマップの周知徹底

ID 1023319

市庁舎や出前講座の開催により、防災意識を高めます。

貯める

校庭貯留や市有施設への雨水貯留タンク設置

学校の校庭などを活用した雨水の貯留を行い、流出抑制を図ります。

水害に強いまちづくりを

本市に甚大な被害を残した令和元年台風第19号。今後も台風の大規模化や、局所的な豪雨が頻発する可能性ががあります。それらに備え、本市では「総合治水・雨水対策推進計画」を策定しました。

この計画に基づき、「流す」「貯める」「備える」の取り組みを3つの柱として、水害に強いまちづくりを目指しています(上のイラスト参照)。

▼「流す」取り組み 河川や下水道の整備などを引き続き計画的に行います。今年度は、河川の土砂などを取り除く「しゅんせつ工事」を強化し、河川の水を流すための河道を確保するなど、浸水被害の軽減に取り組みます。

▼「貯める」取り組み 公共施設への雨水貯留・浸透施設の設置を引き続き進め、市民の皆さんも取り組みに参加できるように、設置支援や周知活動に取り組んでいます。

▼「備える」取り組み 令和3年度には、新たに江川、新川、赤堀川の洪水ハザードマップや内水ハザードマップを作成・公表しました(8ページ参照)。

今年度は、河川の監視カメラ・

※計画期間は、令和3年度～令和12年度の10年間。

推進計画の達成状況と目標

「流す」	整備率		
	令和2年度	令和3年度	10年後
河川	62.5%	63.8%	70.0%
下水道	55.3%	55.3%	63.0%

「貯める」	貯留量		
	令和2年度	令和3年度	10年後
田川・姿川	33万㎡	114万㎡	225万㎡
市管理河川		0.2万㎡	14万㎡

＼県と連携して実現！／

長時間降雨
(6時間で213.6mmの降雨)でも
▼田川流域では5年後
床上浸水ゼロ！
▼姿川流域では10年後
床上・床下浸水ゼロ！

短時間降雨
(1時間で47.2mmの降雨)でも
▼市管理河川流域では
10年後
床上浸水ゼロ！

推進計画などをもっと詳しく！

令和3年度には、推進計画の説明や、災害時にどのように行動すれば市民の皆さんが自分自身の命を守れるか、防災・減災のために何が出来るかなどを中心としたパネルを作成し、展示しました。



令和4年度は、各地区市民センターや市内の商業施設でオープンハウスを開催する予定です。最新情報など、詳しくは、河川課 ☎(632) 2686へお問い合わせください。

＼ご活用ください／

浸水ハザードエリアに立地する生活利便施設の浸水対策への助成制度

☎NCC推進課 ☎(632) 2563

水害に強く、安全で持続可能なNCC(ネットワーク型コンパクトシティ)を実現するため、都市機能誘導区域(中心部や駅周辺など)や市街化調整区域の地域拠点(地区市民センター周辺など)の浸水ハザードエリアに立地する生活利便施設(医療・福祉、子育て支援、商業などの誘導施設)の浸水対策への助成を行います。

▼対象 都市機能誘導区域や地域拠点のうち、浸水ハザードエリアに立地する誘導施設。

▼助成額 止水板の設置など、浸水対策に要する費用の3分の1(上限あり)。

▼その他 補助の要件など、詳しくは、市 ☎ をご覧ください。

貯める 昨年度までに全体必要貯留量の5割以上を確保！

田んぼダムの普及促進

農地所有者や耕作者の協力のもと、水田に雨水を一時貯留し、河川への流出抑制を図ります。
☎農業企画課 ☎(632)2474

流す 強化/ 構造物の維持管理

河川や下水道などの構造物の予防保全型修繕を行い、長寿命化を図ります。

備える 新規/ 河川監視の強化

河川に監視カメラや水位計を設置し、監視体制を強化します。

流す 強化/ 河川や調節池(調整池)のしゅんせつ

河川などに溜まった土砂や流木を取り除き、河川の安全度を向上させます。

貯める 公園への雨水貯留

敷地内で雨水の貯留を行い、流出抑制を図ります。

市民の皆さんが安全安心に暮らせるために

本市では、引き続きこの計画に基づき、効果を早期に発揮できる取り組みを推進し、これから先も市民の皆さんが長く安全・安心に暮らせるよう、水害対策を進めていきます。

水位計の設置を進めるとともに、現在ある複数のハザードマップを市民の皆さんに分かりやすく、使いやすいものに統合し、全戸配布する予定です。引き続き災害から身を守るために必要な情報提供、防災意識の醸成に取り組みます。

明日かもしれない「いつか」のために 今日知る、備える

ハザードマップの確認や家庭内備蓄品・非常持出品などの準備は、今日からでも始められます。明日かもしれない「いつか」のために、しっかり準備しておきましょう。

知る

必ず確認しよう！各種ハザードマップ

本市では、3種類のハザードマップを作成しています。それぞれ被害が想定される範囲が異なるため、すべてのハザードマップを確認しましょう。ハザードマップは市庁から取り出せる他、各配布場所で入手できます。

1 土砂災害ハザードマップ

ID 1023319

大雨などにより発生する土砂災害の範囲を示した「土砂災害警戒区域」や避難所・避難方法などの情報が分かります。土砂災害発生の前兆（5ページ参照）が見られた場合は、すぐに避難しましょう。また、平常時から、自宅周辺で土砂災害が発生する恐れのある場所を確認し、避難経路を決めましょう。

▼配布場所 河川課（市役所8階）☎（632）2686など。



2 洪水ハザードマップ

ID 1023319

台風などの長時間の降雨に伴う、一級河川の溢水(洪水)による浸水被害の発生が想定される「浸水想定区域」や避難所・避難方法などの情報が分かります。対象の河川の流域面積が大きいため、一度洪水が発生すると、広範囲で長時間に及ぶ浸水となりやすい特性があります。日ごろからよく確認しておきましょう。

▼配布場所 河川課☎（632）2686など。



3 内水ハザードマップ

ID 1028992

集中豪雨などで市街地の側溝や下水道を流れる内水が氾濫した際の「浸水想定区域」や避難方法などが分かります。洪水と内水では、降雨の条件や浸水が想定される区域（浸水範囲や浸水深）が異なります。必ず、洪水ハザードマップと併せて確認しましょう。

▼配布場所 下水道管理課（河原町・上下水道局内）☎（633）3374など。



備える

日ごろから準備しておこう

あなたの家は大丈夫？

家庭内備蓄品と非常持出品の準備

ID 1003237

✓ チェックしてみましょう

- 貴重品
- 飲料水・食料品
- 照明・情報端末など
- 衣類・タオル
- 衛生用品(マスク、消毒液、体温計など)
- 応急医療品
- 生活用品
- 眼鏡、コンタクトレンズ

災害時には、電気やガス、水道などが使えなくなることや、食料品や生活用品などが手に入りにくくなる場合があります。必要なものを確認し、準備しましょう。

緊急時に配信されます

土砂災害警戒情報・洪水情報の緊急速報メール

土砂災害や洪水の恐れがある時に、住民の皆さんに危険をお知らせする「緊急速報メール」が県から配信エリア内に届きます。

問 宇都宮土木事務所 ☎ (626) 3146

県HP「土砂災害警戒情報」URL1の緊急速報メールについて、詳しくはこちら



県HP「洪水情報」URL2の緊急速報メールについて、詳しくはこちら



プラスワン ステップ
+1 STEP

雨と上手に暮らそう

ID 1002659

雨水貯留タンクなどの設置費を補助します

問 工事受付センター ☎ (633) 3164

近年、気候変動に伴う集中豪雨が頻発し、年々激しさを増しています。市街地の浸水被害の軽減や河川への雨水流出を抑制するためには、市街地全体で雨水の貯留・浸透能力を高めていく必要があります。

本市では、市街化区域（一部対象外の地区あり）で雨水貯留タンクや雨水浸透ますなどの設置に掛かる費用を補助しています。浸水被害の軽減のためにも、設置にご協力ください。

- ▼対象 市街化区域に土地または建物を所有、占有している人。ただし、一部対象外の地区あり。
- ▼補助額 設置に掛かる費用の3分の2（上限額は下の表の通り）。
- ▼その他 利用には条件があります。詳しくは、工事受付センターへお問い合わせください。



1 雨水貯留タンク



2 雨水浸透ます

雨水貯留施設・浸透施設の補助内容

対象施設	上限額など
1 雨水貯留タンク	1基当たり最大4~8万円（容量による） ただし、建物1棟につき2基まで
2 雨水浸透ます	1基当たり最大3万円 ただし、土地または建物1棟につき6基まで
3 雨水浸透トレンチ	1m当たり最大1万円 ただし、土地または建物1棟につき24mまで
4 浄化槽転用槽	1基当たり最大6万円 ただし、建物1棟につき1基まで